

各国情報及びガイダンス

イラン：クルド人

バージョン 1.0

2015 年 8 月

序文

この文書は、特定の種類の保護と人権の申請を処理する際に内務省（Home Office）の意思決定者に出身国情報（COI：Country of Origin Information）とガイダンスを提供する。これには、申請が庇護、人道的保護、又は裁量的許可の提供を正当化することができるか、及び申請が拒絶された場合に 2002 年国籍、移住及び庇護法（Nationality, Immigration and Asylum Act 2002）第 94 条に基づいて「明らかに根拠がない」と認定できる可能性があるかが含まれる。

意思決定者は、この文書に含まれるガイダンス、入手できる COI、適用される判例法、及び関係政策に関連する内務省のケースワークガイダンスを含む、各事例に固有の事実及び全ての関連する証拠を考慮して、個別に申請を検討しなければならない。

各国情報

この文書における COI は、（通常は）英語で公開されている広範囲の外部情報源から編集されている。情報の妥当性、信頼性、正確性、客観性、最新性、透明性、及び追跡可能性に考慮が払われており、正確性を確保するために個別の情報源の全体で用いられている情報を確認するように可能な限り努力が払われている。引用されている全ての情報源は、脚注で参照されている。これは、2008 年 4 月付の出身国情報（COI）を処理するための共通欧州連合ガイドライン（Common EU [European Union] Guidelines for Processing Country of Origin Information (COI)、及び欧州庇護支援事務所の調査ガイドライン（European Asylum Support Office's research guidelines）、2012 年 7 月付の出身国情報報告方法（Country of Origin Information report methodology）に準拠して調査され、提示されている。

フィードバック

我々の目標は、我々が提供するガイダンスと情報を常に改善し続けることである。したがって、この文書について意見がある場合は、我々宛に E メールを送信していただきたい。

国別情報に関する独立諮問機関

国別情報に関する独立諮問機関（IAGCI : Independent Advisory Group on Country Information）は、2009 年 3 月に、国境・移民局独立首席調査官（Independent Chief Inspector of Borders and Immigration）に対して内務省の COI 資料の内容に関する勧告を行う目的で、同検査官によって設立された。IAGCI は、内務省の COI 資料に関するフィードバックを受け付けている。内務省の資料、手続き、又は政策を承認することは、IAGCI の任務ではない。

IAGCI の連絡先は以下のとおり。

国境・移民局独立首席調査官

5th Floor, Globe House,

89 Eccleston Square,

London, SW1V 1PN

E メール: chiefinspectorukba@icinspector.gsi.gov.uk

IAGCI の任務及び IAGCI により審査されている COI 文書のリストに関する情報は、独立首席調査官の下記ウェブサイトで閲覧することができる。

ウェブサイト: <http://icinspector.independent.gov.uk/country-information-reviews>

目次

序文

目次

ガイダンス

1. 序文

1.1 申請の理由

2. 諸問題の考察

- 2.1 その者の報告は信用できるか。
- 2.2 その者は迫害又は危害の危険に直面しているか。
- 2.3 その者は保護の付与から除外されているか。
- 2.4 危険に直面している者は効果的な保護を求めることができるか。
- 2.5 危険に直面している者は国内を移動できるか。
- 2.6 拒絶された場合に、その申請は「明らかに根拠がない」と認定できる可能性があるか

各国情報：イラン

3. 背景

- 3.1 人口統計
- 3.2 法律及び憲法上の枠組み
- 3.3 歴史

4. イランにおけるクルド人の取扱い

5. クルド人の政治団体

- 5.1 概観
- 5.2 イラン・クルド民主党 (KDPI, 又は PDKI, KDP-I, 及び DPIK としても知られる)
- 5.3 Komala 党 (Komaleh/Komalah)
- 5.4 クルディスタン自由生活党 (PJAK)

6. クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い

バージョン管理及び連絡先

ガイドンス

1. 序文

1.1 申請の理由

- 1.1.1 その者がクルド人であることを理由とする、及び／若しくは彼らの認められた又は

現実の政治的な所属を理由とする、イラン当局による迫害又は重大な危害の恐れ。

2. 諸問題の考察

2.1 その者の報告は信用できるか。

2.1.1 信ぴょう性の評価に関する更に詳細な情報については、「信ぴょう性と難民資格の評価に関する庇護指令 (Asylum Instruction on Assessing credibility and refugee status)」の第4項、第5項を参照されたい。

2.1.2 意思決定者はまた、以前の英国ビザ又は他の許可の申請があったかどうかをチェックしなければならない。ビザと一致する庇護の申請は、庇護インタビューより前に調査しなければならない (「ビザの一致、英国ビザ申請者からの庇護申請に関する庇護指令 (Asylum Instruction on Visa Matches, Asylum Claims from UK Visa Applicants)」を参照)。

2.1.3 意思決定者はまた、言語分析テストを実施する必要性を考慮しなければならない (「言語分析に関する庇護指令 (Asylum Instruction on Language Analysis)」を参照)。

2.2 その者は迫害又は危害の危険に直面しているか。

2.2.1 イランにおけるクルド人は、住宅、水道や公衆衛生、雇用や教育、経済援助の利用、営業許可、大学入学、書籍の出版の許可、及び土地の権利等の基本的サービスの利用に影響を及ぼす制度的な差別に直面している。例えば、クルド人は、ペルシャ系イラン人と比べて仕事を得るのが困難である。クルド人は、戸籍に自身の子に特定の名前を登録することが許可されていない。クルド語は禁止されてはいないが、学校では教えていない (「イランにおけるクルド人の取扱い」を参照)。

2.2.2 政府は、クルド語の新聞、雑誌、及び書籍を禁止し、政府の方針に反対したりそれを批判したりした出版社、ジャーナリスト、及びライターを処罰していると伝えられている。当局はまた、登録許可を拒絶し、そのような団体と協力している者を公安犯罪の罪で起訴することによって、クルド人の NGO の正当な活動を抑圧していると伝えられている。イランにはクルド語を教える学校が存在せず、課外プログラムを立案する地域組織活動による試みは当局によって疑いの目で見られ、プログラムは停止され、指導者は逮捕されている (「イランにおけるクルド人の取扱い」を参照)。

- 2.2.3 しかしながら、全般的に、イランにおいてクルド人が直面している差別のレベルは、弾圧のレベル又は別に非人道的若しくは下劣な取扱いのレベルに達するものとはなっていない。
- 2.2.4 事情は、クルド人の政治活動に関与しているか又は関与していると認められる者については異なる。イラン当局は、クルド人によって実施される社会福祉や文化活動を含めて、政治活動に対して過剰に反応している（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。
- 2.2.5 当局は、クルド人の政党に関連する活動に容赦はせず、関与する者は恣意的な逮捕、長期の拘留、及び身体的虐待の標的にされている。平和的な反対意見を表明する者でさえ、禁止されたクルド人の政治団体のメンバーであるとして告訴される危険がある（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。当局はまた、保安法、メディア法、及び他の法律を用いて、表現や結社の自由に対する彼らの権利を行使することを求めるクルド人を逮捕し、起訴している（「イランにおけるクルド人の取扱い」を参照）。クルド人の政治活動に関与する者はまた、「神への敵意」や「地上での墮落」などの曖昧な容疑で起訴される高い危険性に直面している（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。
- 2.2.6 政治活動を理由としてイラン政府によって逮捕された者は、拷問や死刑を含む重大な人権侵害を受ける現実の危険性がある。少数民族は、過度に偏って、拷問又は他の身体的な虐待の結果として、若しくは抑留者の医療を拒絶した結果として生じる死亡の犠牲になっている（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。
- 2.2.7 政治的な知名度の高い者のみでなく、人権活動家及び文化や言語の権利のより大きな認知を求める者は、その政治的な見解を理由として当局から標的にされている。しかしながら、クルド人の権利について公言する者でさえ、一般的な脅威とみなされる可能性がある。イラン政府が政府に反対するものと認められる活動を行っている支持者と認められる者を拘束した場合は、その家族にもたらされる成り行きは重大なものになる可能性がある。例えば、リーフレットを所持しているところを単純に目撃された者は、ほとんど必ず逮捕され、このような出版物の背後に存在するグループのメンバーであると自白するように拷問されて強制される（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。

2.2.8 クルド人の政党に関係する者の家族もまた、困らされ、拘留される。Evin 刑務所における公判前の拘留において、民族的及び宗教的少数派のメンバーは、起訴された犯罪の種類とは無関係に、他の抑留者より過酷な身体的刑罰や拷問を繰り返し受けたと伝えられている。クルド人の政治活動に関与したと認められる者は、即決裁判で、通常、曖昧に表現された国家公安違反の場合を含めて、禁固刑を宣告され、いくつかの事例では死刑を宣告されている。死刑執行の割合は、イランでは過度に偏ってクルド人が高くなっている。これらの処刑の大部分は、麻薬の密輸の罪状に基づいているが、ときには政治活動家は麻薬密輸人の名目で処刑されている。劣悪な条件に抗議した抑留者は、新たな罪状で脅迫され、独房に移されて、死刑の宣告が早められる（「クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い」を参照）。

2.3 その者は保護の付与から除外されているか。

2.3.1 クルディスタン自由生活党（PJAK : Party of Free Life of Kurdistan）は、しばしば、ときには民間人に対して、国の北西部で襲撃を行っている。PJAK は、トルコの PKK（クルディスタン労働党）テロリストグループと同一の指導者とロジスティクスを共有している（「クルディスタン自由生活党（PJAK）」を参照）。PKK は、2001 年 3 月以降、2000 年テロ防止法（Terrorism Act 2000）に基づいて英国では、非合法化されており、EU のテロ組織リストにも登録されている。

2.3.2 意思決定者は、その者がそのような行為若しくは関係するグループに関与又は関係していたとみなす重大な理由があるかどうか、もしそうであるならば、除外条項が適用するかどうかを検討しなければならない。

2.3.3 ある者が難民条約（Refugee Convention）に基づく保護から除外される場合は、人道的保護（Humanitarian Protection）からも除外される。しかしながら、欧州人権条約（ECHR : European Convention on the Protection of Human Rights）第 3 条又は資格指令（Qualification Directive）第 15 条(c)に違反する現実的な危険性がある場合は、その者は裁量的許可（Discretionary Leave）又は制限的許可（Restricted Leave）の資格を与えられる可能性がある。

2.3.4 「除外に関する庇護指令：難民条約第 1 条 F（Asylum Instruction on Exclusion: Article 1F of the Refugee Convention）」、「裁量的許可に関する庇護指令（Asylum Instruction on Discretionary Leave）」、及び「制限的許可に関する庇護指令（Asylum Instruction on Restricted Leave）」を参照されたい。

2.4 危険に直面している者は効果的な保護を求めることができるか。

2.4.1 その者の恐れは国家の手中にある迫害又は重大な危害であるため、当局の保護を利用することはできないであろう。

2.4.2 国家の保護の利用可能性の評価に関する更に詳細な情報については、「信ぴょう性と難民資格の評価に関する庇護指令 (Asylum Instruction on Assessing credibility and refugee status)」のセクション 8.1 を参照されたい。

2.4.3 「イランに関する国別情報とガイダンス：保護の当事者、国内の移動、及び不法出国を含む背景情報 (County Information and Guidance on Iran: Background Information, Including Actors of Protection, Internal Relocation and Illegal Exit)」も参照されたい。

2.5 危険に直面している者は国内を移動できるか。

2.5.1 その者の恐れは国家の手中にある迫害又は重大な危害であるため、この危険性を逃れるために移動することはできないであろう。

2.5.2 国内の移動の考察に関する更に詳細な情報については、「信ぴょう性と難民資格の評価に関する庇護指令」のセクション 8.2 を参照。

2.5.3 「イランに関する国別情報とガイダンス：保護の当事者、国内の移動、及び不法出国を含む背景情報」も参照されたい。

2.6 拒絶された場合に、その申請は「明らかに根拠がない」と認定できる可能性があるか。

2.6.1 申請が拒絶された場合は、2002 年国籍、移住及び庇護法 (Nationality, Immigration and Asylum Act 2002) のセクション 94 に基づいて「明らかに根拠がない」として認定できる可能性はない。

2.6.2 認定に関する更に詳細な情報については、「非停止請願に関する庇護指令：2002 年 NIA 法 セクション 94 に基づく認定 (Asylum Instruction on Non-Suspensive-Appeals : Certification Under Section 94 of the NIA Act 2002)」を参照されたい。

各国情報：イラン

2015 年 8 月 18 日更新

3. 背景

3.1 人口統計

3.1.1 CIA ワールド・ファクト・ブックは、人口は約 80,840,713 人と推定している。イランは、多民族国家である。最大の民族コミュニティは、人口の約 50–55%を占めるペルシャ人である。人口の残りの部分は、クルド人、ロル族、アゼリー人、アラブ人、アメリカ人、及び多数の他の少数民族からなる。CIA ワールド・ファクト・ブックによれば、イランの人口の 10%がクルド人である。代表なき国家民族機構（Unrepresented Nations and Peoples Organization）のウェブサイトは、イランにおけるクルド人の人口を 2008 年時点で 800 万–1,000 万人（人口の 11–15%）と推定している。

3.2 法律及び憲法上の枠組み

3.2.1 2015 年 6 月に発表されたイランに関する 2014 年米国国務省人権報告書（2014 US State Department Human Rights Report for Iran）は、次のように述べている。

「憲法は全ての少数民族に平等な権利を与えており、少数民族の言語がメディアや学校で使用されることを認めているが、少数民族は平等に権利を享受しておらず、政府は一貫して学校で彼らの言語を使用する権利を否定している。さらに、Gozinesh（選択）法は、シーア派以外の少数民族が市民生活に完全に参加するのを禁じている。この法律及び関連する規定は、イスラム共和国とイスラム教シーア派の教義への献身を条件とした、雇用、教育、及び他の分野への完全なアクセスを定めている。」

3.3 歴史

3.3.1 クルド人のプロジェクト・ウェブサイトによれば、

「イランの Kurdish 地域は、歴史的に、かつ現在、主にクルド人が居住している東部イランの地域である。この地域には、3 つのイランの州—Kordestan 州、Kermashah

州、及び West Azerbaijan 州の一部を含んでいる。これらの 3 つのイランの州は、やはりクルド人が居住するイラクとトルコの一部と国境を接している。

「クルド人は、数世紀にわたって—7 世紀のイスラム征服より前に遡る—イランの北西部地域に居住している。クルド語は紀元後初期の数世紀におけるペルシャ語の方言に由来し、クルド人はその地域の様々な種族や部族を代表すると考えられている。

「現在の「Kurdistan」に類似する初期のクルド国家の設立は、最初のクルド王朝が 10 世紀から 12 世紀までの間に現れたときに起こった。しかしながら、16 世紀半ばまでに、これらの初期のクルド公国はサファヴィー朝（Safavid）とオスマン帝国（Ottoman）の勃興の間に捕らえられて、その後のこれらの 2 つの帝国間の戦争の間に、強制退去させられ、辺境に追いやられた。

「20 世紀初頭には、クルド人の国家主義と政治運動の機運が高まった。クルド人の指導者は第一次世界大戦後に独立を獲得することはできなかったが、クルド国家が第二次世界大戦後に Mahabad にソ連の支援で建国された。しかしながら、いわゆるマハーバードクルディッシュ共和国（Kurdish Republic of Mahabad）は、ソ連がイランから撤退した後崩壊した。

「イランのパフラヴィー朝（Pahlavi）の支配はクルド人に対して特に残虐であり、クルド人の活動家は 1979 年革命においては政権交代の急進的支持者であった。しかしながら、革命後、アヤトラ・ホメイニ（Ayatollah Khomeini）の新しいイスラム政権は異なった言語と伝統を持つクルド人を新しい共和国にとって危険なアウトサイダーとみなした。ホメイニがクルド地域に政府の支配権を確立しようとしたとき、新しい共和国とクルド人との間で武力紛争が勃発した。

「今日まで、イラン西部のクルド人とイラン政府との間の関係は、緊張をはらんだままである。2015 年現在、クルディスタン自由生活党（PJAK）が Kordestan 州、Kermashah 州、及び West Azerbaijan 州のイランの諸州におけるクルド人の自治を推し進めている、イランとイラクの国境地帯を拠点とする急進的な軍隊組織である。」

4. イランにおけるクルド人の取扱い

4.1.1 イランに関する 2014 年米国国務省人権報告書によれば、

「政府は、恣意的な逮捕、長期拘留、及び身体的虐待で、クルド人、アラブ人、アゼ

リー人、及びバローチ人を含む、少数民族グループを過度に偏って標的にしている。...これらのグループは、特に経済援助の利用、営業許可、大学入学、書籍の出版の許可、及び住宅や土地の権利における政治的及び社会経済的な差別を報告している。イランにおける人権に関する国際運動（ICHRI：International Campaign for Human Rights in Iran）やイラン人権ドキュメンテーション・センター（IHRDC：Iran Human Rights Documentation Center）などの人権団体は、政府による死刑の適用は、過度に少数民族に偏っていると述べている。

「Evin 刑務所における公判前の拘留において、民族的及び宗教的少数派のメンバーは、起訴された犯罪の種類とは無関係に、他の抑留者より過酷な身体的刑罰や拷問を繰り返し受けたと伝えられている。例えば、ある旧抑留者は、少数派の抑留者が自身又は他のシーア派の抑留者が受けた1回のムチ打ちに対して20回ないし30回のムチ打ちを科された数多くの事例を目撃したと指摘している。国内の推定800万人のスンニ派のクルド人は、しばしば、より大きな地域的な自治を求めて運動を行っている。政府は、保安法、メディア法、及び他の法律を用いて、表現や結社の自由に対する彼らの権利を行使することを求めるクルド人を逮捕し、起訴し続けている。政府は、クルド語の新聞、雑誌、及び書籍を禁止し、政府の方針に反対したりそれを批判したりした出版社、ジャーナリストやライターを処罰していると伝えられている。クルド語を話すことは禁止されていないが、学校でそれを教えることは禁じられている。当局はまた、登録許可を拒絶し、そのような団体と協力している者を公安違反の罪で起訴することによって、クルド人のNGOの正当な活動を抑圧している。クルド人は、戸籍に自身の子のクルド人名を登録することが許可されていない。Gozinesh（選択）法は、スンニ派のクルド人が市民生活に溶け込む能力を損なっている。」

4.1.2 フリーダム・ハウス（Freedom House）は、「少数民族は、言語の使用の制限を含めた様々な形態の差別を訴えている。多数の少数民族が居住する州のいくつかは、開発が遅れている」と報告している。子どもの権利条約（Convention on the Rights of the Child）の実施に関する市民団体による2015年3月の児童権利情報ネットワーク（Child Rights Information Network）との合同オルタナティブ・レポートは、「課外プログラムを立案する地域組織活動による試みは当局によって疑いの目で見られ、プログラムは停止され、指導者は逮捕されている」と述べている。

4.1.3 国連事務局長（UN Secretary-General）は、2015年2月に、人権の状況に関して「民族的及び宗教的なグループに対する差別は、法律や慣習において存続している。民族のかつ宗教的な少数派グループのメンバーは、逮捕や拘留、経済的機会の否認、教育機関からの排斥、労働権の剥奪、事業の閉鎖、及び墓地や礼拝所などの信仰の場

所の破壊を含む迫害に直面し続けている。文化や言語の権利のより大きな認知を求める個人は、死刑を含む過酷な罰則に直面する危険性がある」と報告している。

4.1.4 デンマーク移民局 (Danish Immigration Service), ノルウェーLANDINFO (Norwegian LANDINFO), デンマーク難民評議会 (Danish Refugee Council) の 2012 年 11 月 9 日から 11 月 20 にかけて,そして 2013 年 1 月 8 日から 1 月 9 日にかけてのテヘラン (イラン), アンカラ (トルコ), 及びロンドン (英国) に関する事実調査団は, ある欧米大使館に諮問した。この大使館は, 「クルド人が文化活動を開催して, 多くの人びとが集まると, 当局は, それが政治活動のための口実であることを恐れるため, 文化的な活動や表現も抑圧している」と述べている。

4.1.5 同事実調査団は, 次のように報告している。

「一般に, いかなる民族的又は宗教的な経歴であれ, 個人は明白にイスラム教の社会制度を受け入れ, それによって生活するならば, 何ら介入を受けないと考えられている。しかしながら, イランには制度的な差別が存在し, 例えば, クルド人は, ペルシャ系イラン人と比べて仕事を得るのが困難である。クルド人は当局からペルシャ人より過酷な取扱いを受けていると考えられているが, クルド人がイランの異なる地域でどのように取り扱われているかの間に区別があるということとはできない。しかしながら, 武装グループ間で何らかの相互影響や活動が行われる可能性がある国境地帯では, 話は異なってくる。」

4.1.6 ある情報筋は, 「政治活動と認められる可能性があるクルド人が行う活動には, 社会福祉や連帯活動が含まれる」と報告している。

4.1.7 デンマーク難民評議会とデンマーク移民局の 2013 年 5 月 30 日から 6 月 9 日にかけてのイランのクルド人, イランにおけるクルド人政党と KRI に関する状況, イランの Kurdish 地域における活動, 国境地帯の状況, 及び KRI からイランへの帰国者の状況に関する事実調査団は, 2013 年 9 月 30 日付けで, Erbil においてイランに関するある西欧の外交官かつ専門家に諮問した。この専門家は, 「イランにおいてクルド人であることは, 必ずしもシリアの場合のように当局とトラブルを引き起こすことを意味するとは限らない。トラブルは, ある者が政治活動に関与したときに始まるのだ」と述べている。

4.1.8 アムネスティ・インターナショナル人権報告書 2014/15 (Amnesty International Human Rights Report 2014/15) は, 次のように報告している。

「ロウハニ大統領による民族的及び宗教的少数派に関する特別顧問の任命は、アフワーズ・アラブ（Ahwazi Arab）人、アゼルバイジャン人、バルーチ族、クルド人、及びトルクメン人を含むイランの少数民族コミュニティに対する蔓延する差別、又はアフル・ハック（Ahl-e Haq）教徒、バハーイー教徒、キリスト教改宗者、スーフィ教徒、及びスンニ派のイスラム教徒を含む宗教的少数派に対する蔓延する差別の低減をもたらすことはなかった。

「少数民族に対する差別は、住宅、水道や公衆衛生、雇用、及び教育などの基本的サービスの利用を損なっている。少数民族は、教育における手段として独自の少数民族の言語を使用することを許されず、それを学習する適正な機会を否定されている。

「少数民族グループのメンバーはまた、死刑を科される可能性がある「神への敵意」や「地上での墮落」などの曖昧な容疑で起訴される高い危険性に直面している。当局は、秘密裏に、極めて不公正な裁判の後で「神への敵意」と結論づけた罪で有罪を宣告した後に、少なくとも 8 名の Ahwazi Arab 人を処刑し、遺体を家族に引き渡すことを拒絶した。10 月までに、当局は、ほとんどが少数民族クルド人のメンバーである少なくとも 33 名のスンニ派のイスラム教徒を「国家公安に反する集会および共謀」、「政治体制に反する宣伝の普及」、「サラフィスト（Salafist）グループへの加入」、「地上での墮落」、及び「神への敵意」などの罪で死刑囚監房に拘留している。シーア派からスンニ派への改宗者は、更に過酷な迫害に直面している。

「特に公判前拘留中の拷問や他の虐待は一般的であり、弁護士との接見の日常的な拒絶や加害者の事実上の刑事免責が事態を更に悪化させている。

「... 当局は、拷問に起因する負傷や過酷な刑務所の条件によって悪化した健康障害を含めて、抑留者や囚人の適正な医療の利用を意図的に拒絶している。」

4.1.9 2014 年米国国務省報告書（2014 U.S. Department of State report）は、「政府及び政府機関は、ほとんど常に、正規の手続きを経ないで逮捕して、裁判を行った後で死

刑を執行することによって、恣意的な又は不法な殺害を犯していると伝えられている。政府は、拷問や肉体的な虐待の後もしくはその間に、または抑留者の医療を拒絶した後に発生した死亡の疑惑に関してほとんど調査をしないか、又は限られた調査しかしない。少数民族コミュニティのメンバーは、このような虐待の過度に偏った犠牲となっている」と指摘している。

4.1.10 2015 年 3 月の報告書で、イラン人権ドキュメンテーションセンター (IHRDC) は、「Rajaeeshahr に拘留されているクルド人のスンニ派教徒の囚人が刑務所内の状況を説明した」と指摘している。この囚人は、「複数のクルド人のスンニ派教徒の囚人が深刻な病状で苦しんでいたが、十分な医療を与えられなかった」と指摘している。さらに、この情報筋は、IHRDC に、「清潔な飲料水が利用できなかったため、監房の囚人の大半は、それまでは健康だった多くの者を含めて、腎臓結石を発症した」と語った。Rajaeeshahr の別のクルド人のスンニ派教徒の囚人は、IHRDC に、「刑務所当局は、しばしば、メディアとの接触やより良好な条件の要求があったと認められたならば、刑を執行すると死刑囚を脅した」と語った。

4.1.11 2015 年 3 月に発表された国際連合人権理事会 (United Nations Human Rights Council) のイラン・イスラム共和国における人権の状況に関する特別報告者の報告書 (Report of the Special Rapporteur) は、以下のとおり指摘している。

「国際的に認められた権利を平和的に行使する弁護士、ジャーナリスト、宗教的及び民族的な少数派を含む個人は、しばしば、国家公安違反で有罪とされている。

「2014 年 11 月 20 日に、(西アゼルバイジャン州の) Urumia 中央刑務所の第 12 監房の少なくとも 24 名のクルド人の囚人が、不十分な囚人の隔離と不十分な医療の利用に抗議して、ハンガーストライキを始めたと伝えられている。囚人のうち数名は、曖昧に定義された国家公安違反の罪で有罪とされている。公安違反の罪のいくつかの例は、国際母語デー (International Mother Language Day) を記念してパンフレットやメッセージを配布すること、ソーシャルネットワークに記事を投稿すること、クルド人の反体制派ウェブサイトと接触すること、政治的なパンフレットを配布すること、及び反体制派政党と協力すること又はそれに参加することである。伝えられるところでは、2014 年 12 月 9 日に、Urumia 中央刑務所の治安部隊が第 12 監房を包囲し、ハンガーストライキを続けるならば抵抗者を攻撃すると脅した。このハンガーストライキに応じて、複数の抗議者が情報局 (Intelligence Office) に出頭させられ、新たな罪状、独房への移送、「追放」のための禁固、及び家族の逮捕等の様々な脅迫を受けたと伝えられている。(Ali Afshari 氏, Mohammad Abdollahi

氏、及び未成年の違反者とされる Saman Nasim 氏の死刑宣告を含めて）ハンガーストライキに参加した他の者は、死刑執行を早めると脅された。12 月 10 日に、情報局が、Saman Nasim 氏の家族にハンガーストライキをやめるよう、さもなければ直ちに死刑を執行すると氏を説得するよう要求したと伝えられる。2014 年 12 月 22 日に、26 名の囚人が、当局が家族への攻撃を停止し、これらの問題について調査すると約束した後で、ストライキを停止したと伝えられている。」

4.1.12 2015 年 5 月 13 日に更新されたイラン軍に関するジェーンの安全保障監視評価（Jane's Sentinel Security Assessment）は、「拷問が蔓延しているとの疑惑の渦中で、イランで処刑されたクルド人の数に対するイランのクルド人コミュニティの中で怒りが高まっている」と述べている。2015 年 2 月の人権の状況に関する国連報告書は、「この調査期間の終了時点において、クルド人コミュニティの 33 名のメンバーが、政治体制に反する宣伝の普及、国家公安に反する集会及び共謀、「地上での墮落」、並びに「神への敵意」を含む、国家公安関係違反の罪で死刑を宣告された後に、死刑囚監房に収監されていると伝えられている。公判前拘留中に、彼らが拷問や虐待を受け、数か月独房に拘留され、弁護士や家族との接見を拒絶されたと伝えられていることを考慮すると、正当な手続きの保証に関して重大な懸念が存在し続けている。... これらの個人が、セミナーに参加し、宗教的読み物を配布することによって、スンニ派の信仰の宣伝を行った罪で収監されたことが恐れられている」と指摘している。

4.1.13 2015 年 5 月に、アムネスティ・インターナショナルは、（2015 年）5 月 7 日に戦闘服に身を固めた警官隊が、クルド人が居住する West Azerbaijan 州 Mahabad 市においてデモ隊を解散させた後で、イランの治安部隊に抗議の取り締まりに際して過度かつ不必要な武力を用いることを控えるように求めた。

4.1.14 同情報筋は、次のように続けた。

「当局は、7 名の警察官を含む少なくとも 25 名がその後に発生した衝突で負傷したと発表した。... 逮捕の報告の渦中で、更なるデモが呼びかけられた後で、警察の取り締まりの強化が恐れられた。... 大規模な抗議者のグループが、25 歳のクルド人の女性 Farinaz Khosravani が数日前にホテルの 4 階から落ちて死亡した後で、怒りを表明するために、5 月 7 日に Mahabad の Tara ホテルの外に集まった。彼女の死を取り巻く状況は説明されていないが、事件は、イランの情報局と治安部隊のメンバーがこの事件の前に彼女を強姦しようと脅したのだと主張する Mahabad の数人の住人の間に、激しい苦痛を引き起こした。州当局は、公にそのような主張に異

議を唱えた。... イラン国外のクルド人の右派活動家たちによれば、暴力事件は機動隊が群衆を排除するために警棒、催涙ガス、そして恐らく実弾を使用して多数の人々を負傷させた後に始まった。この活動家たちは、アムネスティ・インターナショナルに、情報省（Ministry of Intelligence）当局はその後 20 名を逮捕したが、数名の負傷した抗議者は逮捕されるのを恐れて病院に行くのを避けたと語った。... 国際的な人権に関する法律と基準によれば、警察は厳密に必要であり、正当な目的にかなったときにしか武力を行使することはできない。小火器は、急迫する死または重大な負傷に対する防衛において最後の手段としてしか使用することはできず、国際的な小火器の殺傷目的での使用は生命を守るために厳密に避けることができないときにしか行うことはできない。」

4.1.15 国連普遍的定期審査（UN Universal Periodic Review）、2014 年 10 月－11 月へのアムネスティ・インターナショナルの提言は、次のように述べている。

「スンニ派イスラム教徒、特に少数民族クルド人のメンバーは、近年、ますます激しく標的にされている。2010 年 11 月に、Tehran の革命裁判所第 28 支部（Branch 28 of the Revolutionary Court）は、「神への敵意」（moharebeh）や「地上での墮落」（ifsad fil-arz）等の曖昧な表現の罪状で有罪宣告した後で、4 名のスンニ派クルド人兄弟に死刑を宣告した。当局は、2009 年の 6 月と 7 月に 4 名全ての被告を逮捕し、弁護士との接見を拒絶したまま長期にわたって独房に拘留した。彼らは、拘留中、拷問あるいは虐待されたと信じられている。他の 6 人と共に、彼らは、2009 年 9 月 17 日に暗殺された当局に近いとみなされていた高位のスンニ派聖職者の暗殺に関与した罪により起訴された。彼らは、彼らの逮捕と拘留の数か月後に発生した暗殺への関与を否定している。にもかかわらず、2013 年 9 月に、この 4 名は、最高裁判所が彼らの死刑判決を追認したことを知った。2014 年 6 月 14 日に、当局は彼らを Raja'i Shahr 刑務所から秘密にされている場所に移送させ、処刑が間近であるとの恐怖を引き起こした。しかしながら、2014 年 6 月 18 日に、役人が Ghezel Hesar 刑務所の外で抗議するために集まった死刑囚の親類に処刑は間近ではないと語ったと伝えられている。しかしながら、彼らは模擬処刑を受けたと伝えられている。彼らは、死刑の宣告に抗議するためにハンガーストライキを続けており、2014 年 6 月の時点では死刑囚監房に収監されていた。」

4.1.16 同情報筋は、次のように続けている。

「2014 年 6 月初めに、ほとんどがイランの少数民族クルド人である少なくとも 29 名のスンニ派の男性が、死刑囚監房に収監されていたと伝えられている。そのうちの少

なくとも 25 名は、最高裁判所への上告の結果を待っている。そして、そのうちの全て又はほとんどの者は、不公正な裁判の後で「国家公安に反する集会や共謀」、「政治体制に反する宣伝の普及」、「サラフィストグループへの加入」、「地上での墮落」、及び「神への敵意」を含む曖昧な表現の国家公安違反の罪で有罪にされていると信じられている。この男性たちは、宗教的信仰と活動に関連して死刑を宣告されたのだと主張している。

「アフワーズ・アラブ人、アゼルバイジャン人、バルーチ族、クルド人、及びトルクメン人を含む少数民族のメンバーは、憲法では平等が保証されているにもかかわらず、一連の差別的な法律と慣習に直面し続けている。少数派グループのメンバー、特に文化や言語の権利のより大きな認知を求める者は、逮捕や拘留を含む迫害を経験する可能性がある。」

5. クルド人の政治団体

5.1 概観

5.1.1 2015 年 3 月 16 日に発表された世界における自由に関するフリーダム・ハウスの報告書におけるイランの章は、「制度及び国のイデオロギーに忠実である政党や党派しか活動することを許されていない。革新的な政党や政治家は、特に 2009 年以降、強化される圧力や国家の弾圧にさらされている。... 議会は、認定された非イスラム少数派—ユダヤ教徒、アメリカ人キリスト教徒、アッシリア人キリスト教徒、カルデア人キリスト教徒、およびゾロアスター教徒—に 5 つの議席を与えている。しかしながら、少数民族と特に宗教的少数派は、上級の政府の地位を与えられることはまれであり、彼らの政治的な存在感は弱いままである。」と述べている。

5.1.2 クルド人の政治団体に関する更に詳細な背景情報については、「**ACCORD**, イラン：政治的敵対勢力，治安部隊，選択された人権問題，法の支配，2015 年 7 月（**ACCORD, Iran: Political Opposition Groups, Security Forces, Selected Human Rights Issues, Rules of Law, July 2015**）」を参照されたい。

5.2 イラン・クルド民主党（KDPI, 又は PDKI, KDP-I, および DPIK としても知られる）

5.2.1 イラン・クルド民主党（KDPI : Kurdish Democratic Party of Iran）は、1945 年 8 月 16 日に Iranian Kurdistan の Mahabad 市で結成された。KDPI は、クルド

人の反体制派グループの中でも最大で最もよく組織されており、イランにおけるクルド人の自治を求めている。KDPI などの分離独立を目指すと思われるクルド人の反体制派グループは、容赦なく弾圧されている。国家公安違反の罪で有罪判決を受けた少なくとも 28 名のクルド人の囚人が、2012 年末の時点で死刑囚監房に収監されていた。

5.2.2 デンマーク難民評議会とデンマーク移民局は、イランのクルド人とイランにおけるクルド人の政党の状況に関する合同事実調査団を受けて、2013 年 9 月に報告書を発表した。これらの報告書は、次のように述べている。

「イランにおける KDPI のメンバーの組織に関して、パリの KDPI の代表者は、KDPI に所属する者には 3 つの種別があると代表団に情報提供した。すなわち、メンバー、支持者、及び「友人」である。メンバーがどのように組織されているかに関して、パリの KDPI の代表者は、メンバーは下部組織の中に組織されていると説明した。それぞれの下部組織は、1 名以上のメンバーで構成されている。

「パリの KDPI の代表者は、更に、イランにおける党のメンバーのアイデンティティが当局に漏れた場合は、KDPI はこのいわゆる『レッドメンバー』にセキュリティの理由から直ちに出国するように命令すると語った。イランを離れたほとんどの KDPI のメンバーは、一般には、KRI 又は欧州に居住している。」

5.2.3 報告書は、更に次のように指摘している。

「アイデンティティがイラン当局に漏れたためにイランを離れる著名なメンバーに関しては、彼らはほとんど欧州へ行く。党の支持者に関しては、パリの KDPI の代表者は、イランにおける党の支持者は全てその地域の党の下部組織に結合されていると述べている。イランにおける KDPI の支持者のアイデンティティは、それぞれの地元の下部組織にしか知られていない。通常、当局は、党の個別の支持者を認識してはいない。ある者が支持者として漏れた場合は、その者はセキュリティの理由から直ちに出国しなければならない。」

「メンバーと支持者とは別に、パリの KDPI の代表者は、党に「後援者」として結びついている第 3 の種別の者について説明した。KDPI の後援者は、デモに参加すること、告知されたストライキの最中は店舗を占めること、又は新聞にイランにおけるクルド人の状況についての記事を書くことなど、党から奨励されている様々な活動に参加する者として特徴付けられている。KDPI の後援者は、いかなる場合でもクルド人であるとは限らない。

「Mohammad Nazif Qadiri (KDPI) は、KDPI はクルド人の権利のために働けるようにメンバーを国内にとどめるために努力していると述べている。しかしながら、生命を脅かす状況に直面した場合は、出国して、イラン国外に庇護を求めることを余儀なくされている。」

党の支持者の成り行きについて報告して、同情情報筋は、「国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees) は、KDPI を積極的に支援及び支持する者が当局によって逮捕された場合は、その者は深刻な困難に直面すると付け加えている。Erbil の UNHCR は、更に、KDPI の目立たない支持者は拘留され、数日間拘置されると述べている。時々、彼らは取り調べの間自白するように拷問される。その後、彼らは裁判所に連行され、将来いかなる政党にも関与しない旨を示す供述書に署名させられる。... 例えば、リーフレットを配布中に目撃された支持者の典型的な成り行きについて述べるように求められて、中央委員会 (KDPI) のメンバーである Mohemed Sahebi は、ある者が支持者であるかメンバーであるかによって違いはなく、成り行きは拘留と拷問になる可能性がある」と代表団に語った。ある者が自由を信じて、そのために活動するならば、その者は圧力をかけられ、その成り行きは過酷なものになる可能性がある」と指摘している。

5.2.4 イラン軍に関するジェーンの安全保障監視評価は、次のように述べている。

「クルド人のメディアの支局 Rudaw は、2013 年 10 月に、イラクに本拠を置く KDPI 指導者 Khaled Azizi があるインタビューで氏が武力闘争の再開を求める国内の要求の高まりに直面していると警告したと報じた。イランの治安部隊へのクルド人兵士による攻撃の増加傾向が確認できる最近の事件は、イスラム革命防衛隊 (IRGC: Islamic Revolutionary Guard Corps) の 5 人のメンバーが Kordestan 州北西部の Baneh 町付近で正体不明の武装犯人によって殺害された 2013 年 10 月に発生した。犯行声明を出したグループはなかったが、クルド人のメディアが犯人は過激派クルディスタン自由生活党 (PJAK : Partiya Jiyana Azad a Kurdistanê) のメンバーか又は KDPI に所属する兵士であると報じた。KDPI は、後に、殺害された IRGC の兵士は全てイランの少数民族クルド人のメンバーだったと主張する声明を発表した。KDPI はまた、IRGC のもう一人のメンバーがその後 Iraqi Kurdistan との国境に近い West Azerbaijan 州で殺害されたと主張した。しかしながら、このことはまだ確認されていない。Sardasht は、2013 年 8 月に PJAK とイラン政府軍の間で死者を出した戦闘が行われた場所であり、PJAK は 7 名の兵士を殺害したと主張した。」

5.3 Komala 党 (Komaleh/Komalah)

5.3.1 非政府軍武装グループに関するジェーンの安全保障監視評価は、Komala 党に関して次のように述べている。

「Komaleh には、2 つの異なった党派がある。すなわち、Komalah イラン共産党 (Komalah Communist Party of Iran) (Komalah-CPI) と Komala イラニアン・クルディスタン党 (Komala Party of Iranian Kurdistan) (Komala-PIK) である。

「Komaleh は、1969 年に Iranian Kurdistan においてマルクス・レーニン主義の国家主義団体として結成された。グループは、プロレタリアートの先駆者及びクルド人の権利の守護者と自称し、イラン国王 (Shah) の独裁支配に対して政治的な抵抗を行った。

「1979 年のイスラム革命の後、新しいイラン・イスラム共和国に対して武装して戦ったが、合同の反テロリズム作戦を受けて、1983 年にイラクのクルディスタン地域への移転を余儀なくされた。1984 年には、イラン共産党 (CPI : Communist Party of Iran) の結成に参加した。この動きは多くの Komaleh 幹部を離反させることになり、1980 年代末から 1990 年代初頭にかけて Komaleh は 2 つの別の組織に発展した。

「Komaleh の創設者 Ebrahim Alizadeh によって率いられた Komalah イラン共産党 (Komalah-CPI) は、グループの当初のマルクス・レーニン主義の立場をとり、自治的 CPI クルド人軍として活動している。他方で、Abdullah Mohtadi によって率いられて分離した Komala イラニアン・クルディスタン党 (Komala-PIK) は、より穏健な社会主義的イデオロギーを採用し、より大きな党派として現れた。イデオロギーと主義が違ってもかかわらず、これらの党派の目的は、神権的中央政府をイランの少数民族に自治を与える無宗教の、連邦の、民主的な共和国に置き換えるという点で、おおむね一致していた。しかしながら、これらの 2 党派は、協力しておらず、Komaleh によって実施された最近の大規模な攻撃は、Komala-PIK が Iranian Kurdistan 全域での一連の失敗に終わった暴動に参加した 2005 年に行われた。

「その時以来、Komaleh の両党派は、Iranian Kurdistan において政治活動や市民活動を実施することに注力してきた。しかしながら、Komaleh はまだ、軍事力を保持していて、散発的な国境を超える攻撃を実施しているが、現在ではイラン政府の治安部隊にとって限定的かつ局地的な脅威にしかなくなっておらず、イラン国家自体にとってほとんど又は全く脅威となっていない。」

5.3.2 デンマーク難民評議会とデンマーク移民局は、イランのクルド人とイランにおけるクルド人の政党の状況に関する合同事実調査を受けて、2013年9月に報告書を発表した。これらの報告書は、次のように述べている。

「イランにおける政党の組織形態に関して、イラン共産党クルド人組織 Komala 党 (Komala SKHKI : Kurdiatan Organization of the Communist Party of Iran, Komala) の書記長である Ebrahim Alizadeh は、イランにおける Komala 党のメンバーは他のメンバーと関係を持たず、KRI の Komala SKHKI に直接報告する個人であるか、又は3名ないし5名のメンバーで構成される下位組織に編成されていると説明した。このような下位組織の中では、メンバーは業務を分担し、1人のメンバーのみが KRI の Komala SKHKI に直接連絡する。Ebrahim Alizadeh によれば、党のメンバーに加えて、メンバーではなく、党に直接結合しない Komala 党を支援するクルド人である党の支持者が存在する。このような支持者は、党のラジオ番組を聞き、Komala 党のテレビを見て、Komala 党がこのような番組を通してクルド人が実施するように奨励する活動を行う。」

「Ebrahim Alizadeh (Komala SKHKI) は、Komala SKHKI はイラン国内のメンバーが2、3名以上で会合することを許可していないと代表団に情報提供した。」

同報告書は、さらに、「イラン政府の治安部隊によって逮捕された Komala 党の支持者の刑罰について質問されて、Ebrahim Alizadeh (Komala SKHKI) は、刑罰は支持者の活動によって異なると述べた。支持者が政治的資料を保持しているのを目撃された場合は、約2年間の禁固刑に処される可能性がある。同情報筋は、法律は恣意的に執行され、当局は、ときには法律に反する決定をすると付け加えた。しかしながら、同情報筋は、逮捕された者が党のメンバーである場合は、刑罰は10年ないし15年の禁固又は死刑とより過酷なものになると強調した。」と指摘している。

5.4 クルディスタン自由生活党 (PJAK)

5.4.1 更新された「クルディスタン自由生活党 (Party of Free Life of Kurdistan)」に関するテロ研究分析コンソーシアム (Terrorism Research and Analysis Consortium) の情報は、次のように述べている。

「クルディスタン自由生活党 (PJAK : Party of Free Life of Kurdistan) は、クルド人が居住するイラン西部、トルコ南部、及びシリアの北東部において数多くの攻撃を

行っているイラク北部の山岳地帯を拠点とする過激派クルド人国家主義グループである。PJAK は、トルコの PKK 軍と同一の指導体制とロジスティックス及び指導者 Abdullah Ocalan への忠誠を共有しているが、PKK 軍とは異なって PJAK はトルコ政府軍ではなくイラン政府軍と戦っている。PJAK のメンバーの半数は、Eastern Kurdistan で戦う女性であると伝えられている。グループは、積極的に女性のゲリラを募集しており、運動の「急進的フェミニズム」に引かれた「最も残虐で獰猛な兵士」は女性であると述べている。PJAK の女性兵士は、特に Eastern Kurdistan における女性の抑圧や殺害に関してシャーリア法 (Sharia law) を非難している。」

5.4.2 2012 年 9 月 30 日付の Joffé 教授によって編集されたクルド人に関するイラン国報告書によれば、PJAK の運動は、以下の理由から、クルド人の政治運動にとっては驚くべきものである。

「PJAK の運動は、女性の権利と政府への女性の参加を強く支持している。そのイデオロギーは、民主的自由主義に基づくものと思われ、少数民族の権利を認めるために現在のイランの政治体制が民主的な連邦制度によって置き換えられるのを見たいという希望である。PJAK は、明らかに、そのルーツを Tehran での 1999 年のデモの後で発展したイランにおける非暴力学生運動にたどることができる。」

同報告書は、更に次のように指摘している。

「オブザーバーは、PJAK はイデオロギー的にはクルド民主党 (Kurdish Democratic Party) と Iraqi Kurdistan におけるクルディスタン愛国連合 (Patriotic Union of Kurdistan) との間に位置すると示唆しているが、PKK 軍と関係があると示唆する者もある。その主な拠点もまた、2 つの野営地を維持していると言われる Iraqi Kurdistan である。軍事的な衝突を求めないにもかかわらず、Iranian Kurdistan に対するイラン政府の支配という現実には、PJAK がイラン政府の治安部隊に対する軍事行動に従事しなければならなかったことを意味している。」

5.4.3 2009 年 2 月に、米国財務省 (U.S. Treasury) は、そのゲリラがイランのクルド人居住地域で政府軍と戦っているクルド人のグループ PJAK をテロリスト組織と指定した。米国財務省のテロリズム金融情報担当次官は、「我々は、PJAK のテロリストが PKK と結びついているのを暴いている」と述べている。

5.4.4 反体制のクルディスタン自由生活党 (PJAK) は、イラン政府との武力闘争に従事している唯一のクルド人のグループである。クルディスタン労働者党 (PKK :

Kurdistan Workers' Party) と結びついている PJAK は、1990 年代後半にイラン国内で組織化され始め、2004 年に険しいカンディル山岳地帯から攻撃を開始した。グループは、イランにクルド人の自治地域を創設する目的を宣言している。2011 年 10 月に、PJAK は、大規模なイラン政府の攻撃が彼らの軍事力を剥奪した後に、イラン当局と停戦協定を結んだ。しかしながら、PJAK とイラン軍との間の小規模な衝突は、その後も続いている。

5.4.5 2013 年の Landinfo 報告書において諮問された情報筋によれば、

「PJAK は、最も活発な組織であるとみなされていた。PJAK は、イラン政府と停戦協定を結んでおり、最近は見立った武力衝突は起こっていなかった。しかしながら、拘留、拷問、劣悪な刑務所の状況、及び PJAK のメンバーや支持者のイランにおける処刑に関して、数多くの事例が報告されている。ある者が追跡されるには PJAK のメンバーである必要はなく、PJAK に何らかの関係がある他の者も危険性に直面するおそれがあることが更に付け加えられた。PJAK のメンバーの家族もまた、危険性にさらされており、当局による逮捕や取り調べに直面するおそれがある。彼らが、インターネット及び一般にアクセスできる情報源を通して、並びに難民を通して、イラン国内の状況に関する情報を得ていることも、情報筋によって付け加えられた。」

5.4.6 クルディスタン自由生活党 (PJAK) の外務責任者 Shamal Bishir は、「PJAK は、イランでは非合法組織である。党の本部は、カンディル山岳地帯にあり、そこに報道部門がある」と 2013 年デンマーク事実調査団に情報提供した。

5.4.7 イランに関するジェーンの安全保障監視評価は、次のように述べている。

「イラン政府軍が 2011 年に PJAK に対して攻撃を開始して、当時の外務大臣 Ali Akbar Salehi が 2011 年 10 月にグループは脅威ではなくなったと宣言するに至ってからは、激しい衝突はまれになっている。PJAK の兵士の大多数は、国境を越えて Iraqi Kurdistan に撤退を余儀なくされた。」

6. クルド人の政治活動家又は人権活動家及び活動家と認められる者／家族の取扱い

6.1.1 アムネスティ・インターナショナルによれば、「イラン当局は、その多くが国境地帯に居住しているアフワーズ・アラブ人、アゼルバイジャン人、バルーチ族、クルド人、及びトルクメン人を含むイランの少数民族に疑念を抱いてきた。... 平和的

に反体制を表明してきたクルド少数民族のメンバーは、KDPI, Komala 党, 及び PJAK などの禁止されたクルド人の政治団体への参加に対する告発を受けやすい。このような告発は、彼らに拷問や死刑を含む重大な人権侵害の大きな危険性に直面させている。」アムネスティ・インターナショナルは、さらに、「より大きな権利を求める少数民族の人権活動家による要求は、特にアフワーズ・アラブ人、クルド人、及びバルーチ族のコミュニティの一部のグループからの武力抵抗という状況の中で、長年にわたって抑圧されてきた。イラン国内で法律や慣習による差別に直面している彼らのコミュニティの権利のより大きな尊重と保護を要求するこれらのコミュニティの活動家は、恣意的な逮捕、不公正な裁判後の死刑、移動の制限、及び他の市民権の剥奪といった数多くの人権侵害の危険性に直面している。このパターンは、政府の政策へのあらゆる形態の抵抗に対する広範かつ一般化された抑圧という状況の中で継続している。」と指摘している。

6.1.2 Karaj の政治囚に関する 2014 年 8 月の報告書の中で、ヒューマン・ライツ・ウォッチ(Human Rights Watch)は、「ヒューマン・ライツ・ウォッチは数十名の政治的反体制派のメンバーに関する情報を編集しているが、そのうちのある者はムジャヘディン・ハルク組織 (Mojahedin-e Khalq Organization) のメンバーもしくは支持者（又は所属しているとされる者）であり、またある者はイラン・クルド民主党 (PDKI), Komala 党, 又はクルディスタン自由生活党 (PJAK) などのクルド人やバルーチ族の政治的反体制派グループのメンバー若しくは支持者（又は所属しているとされる者）であった。司法当局は、これらの者の多くを暴力及びテロ関係活動への関与の罪で有罪を宣告しており、彼らは過酷な実刑判決に服している。革命裁判所は、これらの囚人の一部の者に死刑を宣告している。これらの者のうちの一部に対する告発、彼らの活動の性質、及び正当な法の手続きの権利の違反に関する重大な懸念は、一部の者は実際には平和的な政治的権利の活動家又は平和的な反体制派のメンバーであることを示唆しているが、ヒューマン・ライツ・ウォッチは彼らの事例に関する十分な情報を収集できなかったため、この点で結論的に判断することはできない。」と指摘している。

6.1.3 フリーダム・ハウスは、「より多くの民族の権利とより大きな自治権を求めて運動している活動家は、当局から抑圧されており、収監されている者もいる。」と報告している。イラン・イスラム共和国における人権の状況に関する 2014 年 8 月の特別報告者の報告書 (Report of the Special Rapporteur) は、「少数民族グループのメンバー、特に民族文化、言語、又は宗教的少数派の権利を支持する者は、ときには一見したところ平和的な表現と結社の権利の行使を求めている場合でも、過度に偏って神への敵意 (moharebeh) 及び地上の墮落 (mofsed fel-arz) の罪の告発を受けてい

るようである。少なくとも 58 名のクルド人の人権活動家が 2013 年 8 月から 2014 年 5 月にかけて、情報省 (Ministry of Intelligence and Security) に喚問された。この数字には、30 名の労働者活動家が含まれ、そのうち 21 名は 5 月 1 日の国際労働者の日 (International Workers' Day) への参加に関連して、2014 年 4 月 28 日から 5 月 1 日にかけて Sanandaj の情報局 (Intelligence Office) や Saqqez の知事 (Governor) によって召喚された。Saqqez 当局は、別の行事を開催するのではなく、政府の公式行事に参加すべきであると一部の地元の労働者活動家に示唆したと伝えられる。」と指摘している。人権理事会への 2015 年 2 月の提言において、国際教育推進インコーポレーティド (International Education Development, Inc.) は、「拘留、拷問、及び処刑に直面しているクルド人の人権活動家の数は、増え続けている。人権グループによれば、イランはクルド人コミュニティのほぼ 400 名のメンバーを含む少なくとも 900 名の政治囚や国事犯を収監している。そのうち 93 名の政治囚が神への敵意 (moharebeh) の罪で死刑を宣告されており、そのうち 62 名がクルド人である。」と報告している。

6.1.4 デンマーク難民評議会とデンマーク移民局の 2013 年 9 月の合同事実調査団は、様々な情報筋と会合したが、彼らは次のように述べている。

「Erbil におけるイランに関するある西欧の外交官かつ専門家は、クルド人の政治団体に関係があるいかなる活動家に対してもイラン政府の側に容赦はなく、そのような団体のうちの 1 つへの所属は逮捕の理由になったと説明した。このことの主な理由は、その非暴力の反対運動にもかかわらず、これらの団体の最終的な目的が、既存の体制の中で変革を目指す環境保護運動 (Green Movement) に対する支持よりはるかに悪いイランの政治体制の変革だからである。」

「Erbil におけるイランに関するある西欧の外交官かつ専門家は、処刑率はイランではクルド人が高くなっていると代表団に情報提供した。これらの処刑の大部分は、麻薬の密輸の罪に基づいている。時々、政治活動家は、麻薬の密輸入であるという口実で処刑されている。」

「情報通のクルド人ジャーナリストである Ammar Goli は、自身の活動が当局に漏れると重大な危険に直面するため、人々は秘密裏に PJAK のために活動していると述べている。」

「Mustafa Moloudi (KDP-Iran) は、イラン国内で秘密の活動に従事していた (KDPI) 党のメンバーの一部は当局によって逮捕されたと説明した。彼らのうちのある者は処

刑され、ある者はある期間の拘留後に釈放されたが、他の者は交換された。しかしながら、釈放された者は、例えば教師として働いていた場合など、公職を失い、二度と公共部門で働くことを許されなかった。」

「Komala 党のメンバーであることに対する刑罰に関して、Ebrahim Alizadeh (Komala SKHKI) は、Komala 党の下位組織のメンバーがイラン当局によって逮捕されると、拷問されるか、終身刑に処されるか、又は処刑されると代表団に語った。下位組織のメンバーの家族の成り行きに関しては、Alizadeh は家族が逮捕される恐れがあるが、しばらくして保釈金を支払うことで保釈されると説明した。」

「情報通のクルド人ジャーナリストである Ammar Goli は、現在のところ、PJAK のメンバー又は支持者であるという罪に問われてイラン当局によって逮捕された者にかかわる 200 件の事件が存在すると述べている。実際には、これらの者の多くは PJAK には所属しておらず、むしろ学生活動家、人権活動家、文化活動家などである。2006 年以降、PJAK に関係した罪に問われて死刑を宣告された者の事例は 25 件存在する。これら 25 名のうち 6 名は、処刑されている。そのうち 3 名は PJAK のメンバーであったが、他の 3 名は PJAK とは無関係であった。この 3 名は、... 教師であり、政府職員であり、イランとトルコの国境地帯で逮捕されたトルコ人であった。同情報筋は、PJAK のメンバーが死刑を宣告された場合は党はそれに関して声明を出すと強調した... 政府は、これらの人々が PJAK とは無関係であることを知っていながら、脅威とみなす人々を抹殺する口実として PJAK への所属の主張を用いたのである。」

「Ziryan Roj Helaty (Tanupo Magazine) によれば、イラン当局は、イラン国内のクルド人に対して非常に神経をとがらせており、当局は常にクルド人の活動に対して過度に偏った反応をしている。その結果、例えばイラン当局が政府に反対する活動を実施している支持者を逮捕した場合は、その者とその家族の成り行きは重大なものになる。」

「Ziryan Roj Helaty はまた、KDPI に関連することは何でも、クルド人やその権利への言及でさえ、問題を引き起こす恐れがあると述べている。KDPI について直接語る者は、当局から見れば、KDPI に所属する者であり、クルド人の権利について話す者は全体的な脅威とみなされる。... 近年中東全体に広がっているクルド人の愛国心はイランにも到達する可能性があり、このことはまさにイラン当局が恐れているものにほかならない。」

「Erbil の UNHCR によれば、政治的に著名な者及び人権活動家は、標的にされてい

る。... KDPI のメンバーは、イラン当局に逮捕されると、ほぼ 2 年から 10 年の禁固刑に処される。庇護申請者からの情報によれば、KDPI のメンバーは他の KDPI のメンバーの名前を自白及び開示するように公判前の拘留中に拷問を受ける。拘留期間は、抑留者の関与のレベルに応じて、一般に 1 か月から 6 か月である。禁固刑の宣告は、その者の関与のレベルとその者に対して提示された証拠によって異なる。」

あるクルド人の政党に関係する者の家族の取扱いについて報告して、同情報筋は、「当局がチラシを所持しているのを目撃された者の家族をどのように取り扱うかを質問されて、Erbil の UNHCR は、指名手配者が出頭するまで、家族は迫害を受けると答えた。当局はときには、家族を拘留し、数時間にわたって尋問した後解放するか、又は当局は家族のうちの 1 人を拘留する。どのような場合に家族は過酷に又は軽度に罰せられるか質問されて、Erbil の UNHCR は、当局が逮捕できなかった者の家族を拘留する根拠はイランの法律には存在しないと答えた。しかしながら、現実には、当局が政府に反対して積極的に活動している者が当局から逃亡したことを知った場合は、当局は家族を尋問し、ときにはしばらく拘留し、指名手配者の行方について自白させるために拷問を用いている。クルド人の政治活動家やクルド人の政党のメンバーの家族への圧力に関して、イランに関するある西欧の外交官でもある専門家は、イラン当局は家族に圧力をかけていると代表団に情報提供した。この圧力は、公共部門におけるその地位を剥奪すること、しばしば召喚して尋問すること、家族を召喚して拘留する旨の脅迫をすること、より高い教育又は公共部門での雇用へのアクセスを剥奪すること、そのコンピュータを調べること等によって行われるおそれがある。」と指摘している。

6.1.5 キリスト教への改宗、クルド人に関する諸問題、及び 2009 年選挙後の抵抗者、並びに法律的な諸問題及び出国手続きに関する 2013 年 2 月の Landinfo 報告書は、Ankara のある国際機関は「クルド人の地域では、KDPI、Komala 党、及び Khabat との関係を疑われた者は、保安当局に召喚される恐れがある。文化活動を主催する者もまた、尋問のために召喚されるおそれがある。このようなことは標準的な保安管理ではないが、当局が、彼らが監視されていることを示すことによってそのような個人に圧力をかける方法である。」と語ったと報告している。

「当局は、これらのグループのメンバー、すなわち登録されたメンバーである者を標的としており、これらの事例では女性や子供を含むその家族も同様に当局によって圧力をかけられる恐れがあると考えられている。当局は、それらの者を標的とするため、それらの者を探すため、並びに彼らとその家族に圧力をかける手段として、それらのグループの活動家の家族を直接標的とする可能性がある」と説明されている。」

「クルド人地域における状況を質問されて、ある西欧の大使館は、2013 年 2 月の Landinfo 報告書の中で、『現地で情報を得ることは困難である。ハタミ（Khatami）の時代に、中央政府とクルド人地域の間で対話が始まった。しかしながら、今日では、家族が PJAK, Komala 党, 又は KDPI のメンバーであるという理由で、ますます多くの一般人が当局から追求されている。反対活動は徐々に増え続けていると考えられるが、どのような種類の活動が継続して行われているかについて話すことは困難である』と述べている。」

Landinfo 報告書は、さらに、次のように指摘している。

「ある者がチラシを所持しているのを目撃された場合、その者は逮捕されて、拷問され、更にそのような出版物の背後にあるグループのメンバーであることを自白させられる可能性が極めて高い。その者は、5 分間の裁判を受けて、そのような裁判の結果は長期にわたる禁固から軽微な判決まで様々である。一概に言うことはできない。」

政治活動家の家族の成り行きについて質問されて、アンカラのある国際機関は、「ある者が分離独立団体に所属しているとみなされると、その者は危険に直面することになる。家族も同様に、反体制派とみなされるおそれがある。クルド人地域では、家族は規模がより大きく、その結合はより密接である。ある者が KDPI に所属していると、家族の中に別の活動家がいると予測がつくことになる。ある活動家が逃走中である場合は、家族を追求するというのが当局の一般的な傾向である。家族を追求することはまた、1 つの実例を作り出すのみでなく、恐怖を生み出すことになる。」と情報提供している。

6.1.6 2015 年 2 月 18 日付けのラジオ・フリー・ヨーロッパ及びラジオ・リバティー（Radio Free Europe, Radio Liberty）の報告書「イランは未成年として犯した犯罪についてクルド人を処刑しないように求められている（Iran Urged Not To Execute Kurd Over Crime Committed As Minor）」は、次のように述べている。

「国連の人権専門家と国際的人権監視人は、未成年として犯した犯罪について死刑を宣告された若いイランのクルド人の予定された処刑を中止するようイランに対して訴えた。Saman Naseem（22 歳）は、反政府のクルディスタン自由生命党（PJAK）のメンバーであること及び革命防衛隊（Revolutionary Guard）との武力衝突への関与の罪で有罪を宣告された後に、2 月 19 日に処刑される予定であった。彼は、逮捕されたとき 17 歳であり、伝えられるところでは拷問を受けた後、2013 年 4 月に死刑

を宣告された。イランにおける人権の状況に関する特別報告者である Ahmed Shaheed と裁判なしの死刑に関する特別報告者である Christof Heyns は、2 月 18 日の声明で、「少年犯罪者の処刑は国際人権法によって明白に禁じられている」と述べている。」

6.1.7 2015 年 2 月に、国際人権連盟（FIDH : International Federation of Human Rights）は、次のように報告している。

「Saman Naseem の死刑宣告は、国際法に基づいて不法である。すなわち、いずれもイランが批准している市民的及び政治的権利に関する国際規約（International Covenant on Civil and Political Rights）及び国連子どもの権利条約（UN Convention on the Rights of the Child）は、少年犯罪者に対する死刑を禁じている。にもかかわらず、イランは、国際法、並びに Naseem の不法な処刑の中止を求める国際的な人権グループ、国際連合、及び欧州連合の要求を無視した。」

同情報筋はまた、次のように指摘している。

「Saman の親戚は、『イラン当局から連絡を受け... 刑務所から彼の私物品を回収し... 沈黙を保つよう命令された。』」

6.1.8 しかしながら、ラジオ・フリー・ヨーロッパ及びラジオ・リバティーは、2 月に、次のように報告している。

「2 月 19 日の朝にイランで絞首刑に処される予定であった Saman Naseem の処刑は、予定通り行われなかったと伝えられており、理由は直ちに明らかになっておらず、Naseem が後日処刑されるかどうかは明らかではない。この成り行きは、17 歳のときに起訴された罪により死刑を宣告された 22 歳の Naseem の予定された処刑の中止を求めるイランに対する国際的な訴えを受けたものであった。」

6.1.9 2015 年 3 月に、アムネスティ・インターナショナルは、Saman Naseem が処刑されなかったことを次のように明らかにした。

「Saman Naseem は、彼の予定された処刑の前日の 2 月 18 日にイラン西部の Oroumieh 刑務所から明らかにされていない場所に移送された。彼の生死を知ることができない家族にとって不安な 1 か月が過ぎた後、当局は死刑の判決が執行されなかった旨を Saman Naseem の弁護士に告げた。しかしながら、当局は、Saman Naseem

の行方を開示することを拒絶している。彼の家族は、訪問も電話も許可されていない。彼は、国際法では犯罪とされる強制失踪に他ならない状況に置かれている。」

2015 年 7 月に、アムネスティ・インターナショナルは、さらに、次のように指摘している。

「Saman Naseem は、週末に刑務所から親戚に電話することができ、彼がどうなったかを知ることができなかった彼の愛する者達が被った 5 か月に及ぶ耐え難い苦しみが終わった。最高裁判所もまた、Saman Naseem の司法審査の申請を認めたため、彼の有罪と死刑の判決は破棄され、彼は完全な再審の権利を与えられることとなった。この出来事は、正常に機能しない刑事司法制度を明白に示すものである。公判前の尋問の間、Saman Naseem は弁護士との接見を許されず、小さな独房に収監されて、繰り返し拷問されて「自白」を強制された。彼は、告発された犯罪の時点で 18 歳未満であり、そもそも死刑を宣告されるはずではなかった。」

6.1.10 2015 年 6 月に、代表なき国家民族機構は、次のように報告している。

「ある著名なクルド人の政治囚が今週初めに家族への通知も行われず処刑され、イラン・イスラム共和国における反体制派運動全体に衝撃と憤りをもたらした。Mahabad 出身の元レスラーである Mansour Arvand（39 歳）は、「神への敵意」とペルシャ語から翻訳されている「Moharebeh」の罪で 2011 年に死刑を宣告されていた。絞首刑による彼の死は、Hassan Rouhani 大統領の新政府が多くのクルド人の政治囚の状況を改善するだろうという希望を表明していたイラン国内外のクルド人活動家を激怒させた。」